

アトリエ構造設計事務所の魅力

—自立した構造設計者になるという選択肢—

木下 洋介 (木下洋介構造計画)

構造設計者が日常的にどのように仕事を行っているのか、そしてアトリエ系と呼ばれる構造設計事務所が一体なものなのか、よく知っている方は少ないかもしれない。

言うまでもなく構造設計者は建築家の構想する建築物に対し、それを成立させる構造を構想し、設計・監理を通じて具現化していく職業である。

そして、構造設計を専業とする設計事務所の中でも特に「アトリエ構造設計事務所」は、およそ一人の構造設計者を中心とした小規模の組織により、対象の建築固有の構造を実現しようとする構造設計事務所である。

しかしその先の個々の構造設計者の考えやその仕事の日常を知っている方は少ないのではないだろうか。

■構造設計の仕事セミナーの開催

4年前から同世代のアトリエ構造設計所を主宰する8人ほどで集まり、学生や若い実務者向けに構造設計の仕事を紹介するセミナーを開催している。

かねてから構造設計の仕事はこれから建築の設計を目指す学生の皆さんやそれ以外の方にとっても、その実態を正しく認知いただけていないと感じていた。構造設計の仕事は建築作品以外のかたちとして表に出ることが少なく、大学での授業も構造力学や専門科目の理論に重点を置いているため、構造設計の実務の実際を学ぶ機会や、生の構造設計者に会う機会などがそもそも少ない。

そこで、構造設計の仕事そのものを知ってもらう機会を作りたいと考え、日常的につながりのあった世代の近い数名の構造設計者の皆さんと4年前から東京や地方の主要都市で不定期にセミナーを開催している。

2015年5月に開催した第1回のセミ



写真1 第一回セミナーの様子

ナー「アトリエ構造設計事務所の仕事」は当初、100人程度の参加者が集まればと準備を始めたが結果的に200人以上の学生や比較的若い社会人の皆さんにご参加いただくことができ、大きな反響をいただいた(写真1,2)。

セミナーは8人の構造設計者それぞれの事務所の紹介から始まるが、内容は多岐に及ぶ。例えば、自分が構造設計の道に進んだきっかけ、大学卒業後に就職した構造設計事務所での修行時代の話、独立のタイミング、独立後の事務所の運営、どのような物件を設計しているか、スタッフの働き方や事務所の雰囲気、独立後のキャリアデザインについてなど(図1)。

また、第2回のセミナー(2017年10月開催)からは上記メンバーの構造設計者8人に加え、大学の研究者や建築家の方などにも講演もいただき、俯瞰的な視点から日本の構造設計や構造設計者、アトリエ構造設計事務所の位置付けの話題提供をいただいている。



写真2 会場からの質問に答える
セミナー開催メンバー

最近では地方開催も行い、東京開催では参加の難しい地方大学の学生にセミナー参加の機会を提供し、地元の構造設計者にもゲスト出演していただいたりしている。

2015年の初回から数えて計5回開催したセミナーは下記となる。

- 第1回 東京開催 2015年5月
- 第2回 東京開催 2017年10月
- 第3回 福岡開催 2018年6月
- 第4回 東京開催 2019年3月
- 第5回 仙台開催 2019年6月

今回は11月30日に地方開催として京都での開催を計画している。

■書籍の出版

セミナー開催を数回重ねたのち2019年9月にこうしたセミナーでお話した話題に加え、さらに多様な立場で活躍するアトリエ構造設計者計16人と構造関係者6人にご協力いただき、セミナーで伝えられたことを書籍化した。

書籍ではセミナー開催のメンバー8人に加え、女性、組織設計事務所出身者、海外で活躍するなどより多彩なメンバーに加わっていただき、それぞれの踏み込んだ構造設計観や日常の業務の実際を書き添えていただいている。

■日本の構造設計者の特殊性

第2回開催時に講演いただいた芝浦工業大学の小澤雄樹先生から日本の構造設計についての俯瞰的な話題としてご提供いただいたのが、図3(次頁参照)の日本の構造設計者の系譜図である。日本の構造設計の草創期に活躍した一握りの先人たちからつながるこの系譜は現在、多様に活動する我々多くの構造設計者に引き継がれている。この日本の構造設計者に引き継がれる「血」とも言えるものが建築デザインと構造技術の融合、構造デザインの思想である。

その源流を形成したものは複合的であるが、ひとつには偉大な日本の構造設計の先人たちが建築家と格闘して生みだし



「構造設計を仕事にする—思考と技術・独立と働き方—」(学芸出版社)

職能向上のスキーム (新卒の場合)

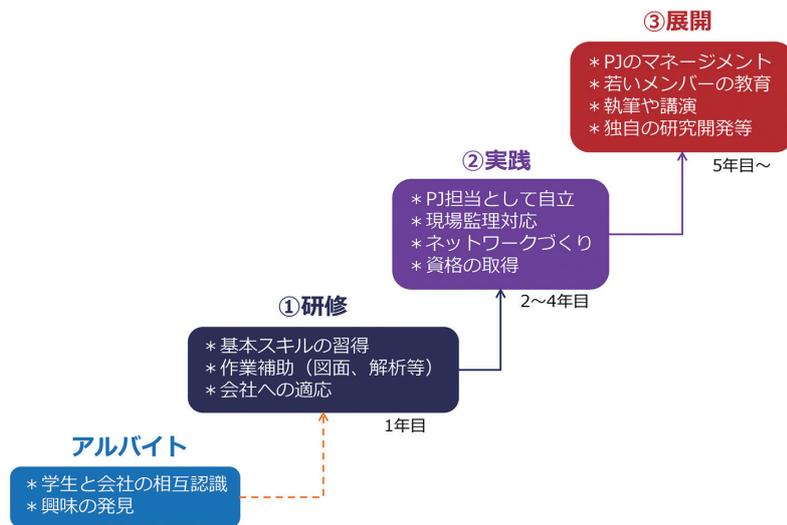


図1 セミナー説明資料の一部(山田憲明氏のプレゼン資料より)スタッフの職能向上のスキーム

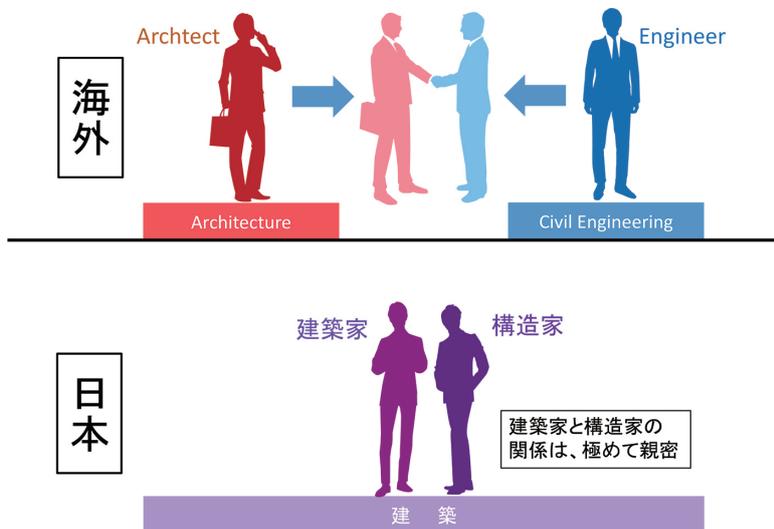


図2 海外と日本の建築教育(芝浦工業大学・小澤雄樹准教授作成)

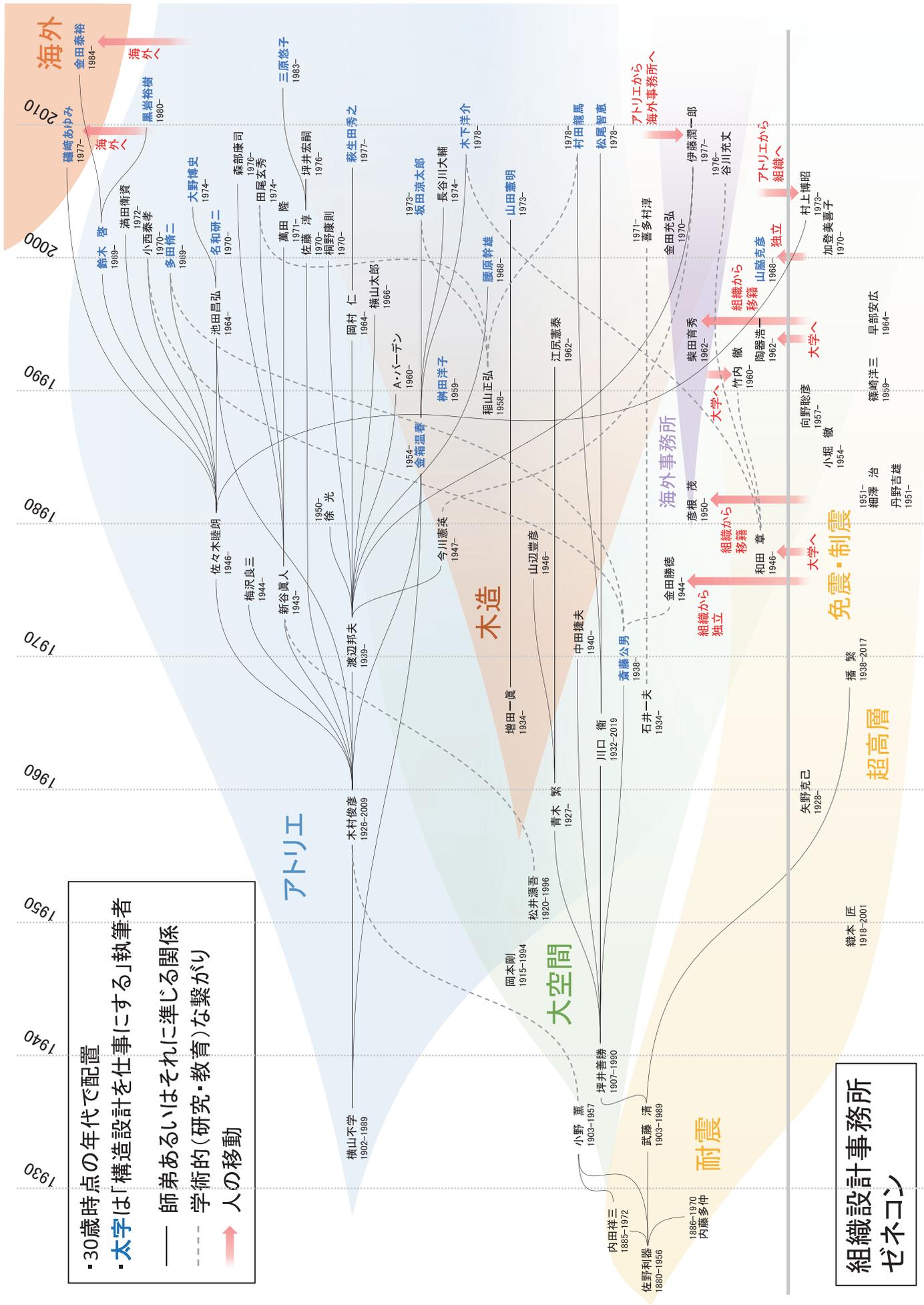
た建築物とそれにまつわる物語がその後の構造設計者たちに多大な影響を及ぼしていることは間違いない。また、他方には大学の建築教育課程の中で意匠系も構造系も一緒に学ぶという日本独特の建築教育システム(諸外国では意匠は芸術系、構造は工学系に所属して一緒に教育を受けることはない)にあるかもしれない(図2)。

■アトリエ構造設計の魅力の発信

4年前に始めたセミナーは前述の通り、多くの方から大きな反響をいただくことができたが、それ以上に我々構造設計者自身が自分たちの仕事を見つめなおす機会にもなっていると感じる。

私たち構造設計者は関わった作品を通じて以外に、自分たちの日常の仕事がどういったものかということを外の世界に十分には発信をしてこなかった。しかし、こうした機会を得て、改めて自分たちの仕事を見つめなおした時、そこには構造設計の技術を軸とした人生の豊かさといったものを再認識した。

本記事ではセミナー開催メンバーの事務所の紹介をさせていただいている。今後のセミナー参加や書籍をご一読いただき、アトリエ構造設計の世界に触れていただければ幸いである。



・30歳時点の年代で配置
 ・太字は「構造設計を仕事にする」執筆者
 — 師弟あるいはそれに準じる関係
 - - - 学術的(研究・教育)な繋がり
 → 人の移動

**組織設計事務所
ゼネコン**

図3 構造家系譜図(芝浦工業大学・小澤雄樹准教授作成)